がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第３１９号
令和３年７月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

求められる環境づくり
～高齢者の見守り活動～

大船渡市保健福祉部地域包括ケア推進室は、6月28日、第1回大船渡市地区助け合い協議会および支え合い協議会情報連絡会を開催した。

この会議は、地区助け合い協議会と支え合い協議会の取り組み状況を共有し、課題やその解決に向けた話し合いの場であります。

今回は、高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯が増えている中で、地域住民ができる範囲で取り組める、「気づき」と「声がけ」による高齢者の見守りについての意見交換でした。

大船渡市の人口は、34,635人（令和3年6月30日現在）でありますが昨年の国勢調査によると、世帯数は14,880世帯で、うち、高齢者の単身世帯は2,789世帯、高齢者夫婦世帯は2,010世帯で合わせると、4,799世帯となり全世帯数の32.2%とにあたります。

＜高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るために＞

1・行政の支援

2・地区助け合い協議会や地域のボランティア団体などが連携した生活支援

3・身近な場所で開催されるサロン活動活動

どにより、**地域住民と高齢者の交流を図り、日頃から高齢者を見守る環境づくりが求められています。**

地域においては、住民同士がさりげなく気遣い合い、困ったときには、遠慮なく助けを頼めるような地域とするために、地域の誰もが見守りにかかわる意識を持つことが大切です。

また、住民の皆さんが負担に感じることなく、「さりげない見守り」の意識を持つためには、「気づきとなるポイント」を知ることが重要です。

それが、つぎに掲げる**高齢者の「緩やかな見守り10項目」**です。

★外からの気づきとして

①昼間でも電気がついたまま。暗くなっても電気がつかない。

②何日も同じ洗濯物を干したままになっている。

③新聞や郵便物がたまっている。

④家の中から怒鳴り声、悲鳴が聞こえる。

⑤家の周りや庭が荒れてきた。

★対面での気づきとして

⑥最近、外出している姿を見かけない。

⑦最近、元気がない。様子がいつもと違う。

⑧最近、話がかみ合わない。同じ話を繰り返す。

⑨髪が乱れている。同じ服装や季節に合わない服装をしている。

⑩身体（顔、手足など）にあざがある

地域の皆さんが、できる範囲で高齢者を緩やかに見守り、何か異変を感じたときは、市に連絡して、専門機関につなぐことが大切です。

お互いさまの気持ちで、「気づき」と「声かけ」に取り組んでみましょう。

◎見守りの際に気を付けたいこと

①監視にならない見守りを

さりげなく見守る中で、「見守る人」、「見守られる人」という監視の関係になってしまうと、個人の自由や生活を阻害してしまう恐れがあります。

あくまでも、さりげなく、お互いを気遣い合う関係をつくることが大切です。

②住民の負担にならない見守りを

ご近所付き合いの中でのあいさつや散歩の途中での気づきなど、新たに活動を立ち上げなくても、普段の生活の中に少し視点をプラスするだけで十分な見守りとなります。

「いつもと違って、様子が変だな」と感じたときは、左記にお知らせください。

大船渡市地域包括ケア支援センター ☎26-2943

末崎町の石碑・祠・神社

47　について　～　その2

(1)　えびす様とは

③　福の神

平安時代末期には、えびす様を市場の神（市神）として祀った記録が残っており、鎌倉時代にも鶴岡八幡宮境内で市神として祀ったという。このため、中世に商業が発展するにつれ商売繁盛の神としての性格も現われたとされる。同時に福神としても信仰されるようになり、やがて七福神の1柱とされる。

えびす様は耳が遠いとされているため、神社本殿の正面を参拝するほか、本殿の裏側に回りドラなどを叩いて祈願しなくてはならないとされる。このため、今宮戎神社などでは本殿の裏に、ドラが用意されている。

④　えびす講

えびす講は、えびすを神として祭り、五穀豊穣・商売繁盛・家内安全を願う講である。

(2)　えびす信仰には蛭子命（ひるこのみこと）説と事代主神（ことしろぬしのかみ）説の二つが主なものである。

①　蛭子命説（ひるこのみこと）

蛭子命は、3歳になっても足が立たなかったため流し捨てられたとされる。その神話を受け、流された蛭子命はどこかの地に漂着したという信仰が生まれ、蛭子命が海からやってくる姿が海の神であるえびす様の姿と一致したため、2神は同一視されるようになった。

蛭子命の漂着説の代表が兵庫県西宮市の西宮神社とされていて、全国えびす神社の総本宮とされている。（紀）

西舘の「舘の鼻」に鎮座するえびす様と西宮大神宮碑、管理者　熊上真氏

★地区公民館から地区センターへ

末崎地区公民館は、5月28日、令和3年度第1回末崎地区まちづくり懇談会（説明会）を開催した。参加いただいたのは、末崎町振興会代議員である地域公民館長ならびに各団体の首長である。当日は協働まちづくり部市民協働課の新沼晶彦課長より、あらためて市の考える「協働のまちづくり」について説明いただいた。その内容は次のとおりである。

協働のまちづくりで目指すもの

人口が減少する中でも、地区の力を維持し強化するために、地区内（町内）住民や団体同士、地区と行政が協働する地区づくりを進める。

基本的な方針として

①地区内での協働

②地区と行政の協働

③地区運営組織の構築と地区分権の推進

の三方針を挙げ、これに基づいて詳しく説明した。

特に、地区公民館の機能を継承しながら様々な取りくみへの対応が可能となるように「地区運営組織」（行政から独立した住民主体の組織）をつくり、若い人や女性も積極的に参画する地区住民のための、よりよい「まちづくり」を進めてほしいと、話された。

★末崎体育協会主催
グランドゴルフ春季大会

末崎体育協会主催グランドゴルフ春季大会は、6月27日（日）、小細浦グランドゴルフ場で27名の参加により開催されました。成績は次の通りです。

優　勝　澤下隆　57打

準優勝　ホールインワン　古澤範雄　58打

第3位　ホールインワン　滝田繁蔵　59打

ホールインワン　3

町民の健康の増進と融和と交流の場づくりを目的に開催されました。

当日は日差しの強い暑い一日でした。参加頂きました皆様には大変ご苦労様でした。